

平成28年度 6月号



新座二中だより

新座市立第二中学校
新座市野火止 7-17-10
電話 048-477-1212

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

「ともに夢を語る生徒・教師・学校」を実現します

校長 田村 和昭

新年度も2か月が過ぎ、難関の中間テストをようやく終え一区切り、ほっとしているところでしょうか。

さて今回は、夢や希望を持ちその実現に向け勇気をもって行動を起こしたある少女の話をしていきます。

勇気の少女 マララ・ユスフザイ

史上最年少17歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは、11歳の時にイギリスのBBC放送のブログにペンネームで日記を投稿し始めます。

少女の住むその頃のパキスタン北部は、女性の教育の権利を認めない武装勢力により、女子学校が破壊されていく状況下にありました。少女は「学校で学びたい」と願い、圧力に屈することなく「女の子にも教育を、全ての子どもが学校に通える平和を」と、訴え続けていました。



2012年10月9日、通っていた中学校から帰宅するためスクールバスに乗っていたところを、少女を狙った武装勢力の複数の男が銃撃します。少女は頭部と首に計2発の銃弾を受け、一緒にいた2人の女子生徒と共に重傷を負います。マララさん15歳の時です。

奇跡の生還後少女は、国連本部でスピーチを行い「事件後、私の中で変わったことなど何もない、希望も夢も前と同じ」「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、一冊のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。」と全世界に向けて訴えました。その勇気ある行動が高く評価され2014年ノーベル平和賞を受賞したのです。少女は受賞において「この賞はただしまっておくためのものではない。終わりではなく始まりに過ぎない」と表明しました。

「学校で学んでいる」ということ

皆さんには、このマララさんの言葉の意味とともに、「学校で学んでいる」ということの意味と幸福を、今一度考えてほしいと思います。皆さんと同世代の少女の「学校で学びたい」という願いと勇気が、世界の人々の心を動かしたように、皆さんもまた、自分の夢や希望をしっかりと持ち、自らの将来を、勇気をもって力強く切り拓いてもらいたいと思います。

私たち第二中学校の目指す学校像は

真理を胸に刻む学校

ともに夢を語る学校 です。

2013年12月、ユネスコとパキスタンは、就学機会を奪われた女性の教育を支援するマララ基金の設立を発表しました。

2015年7月にはシリア難民の少女を対象として、レバノン東部に学校を開校しました。この学校の開校にあたってはマララ基金から資金が拠出されています。